

# 特定外来生物防除等対策事業の効果的な運用

【担当省庁】環境省

## 奈良県における取組



特定外来生物防除等対策事業のご支援に感謝！

### ■外来種防除事業

外来生物法により指定された特定外来生物のうち、特に県民生活に被害の大きいものについて、従来から啓発活動や積極的駆除を実施している。

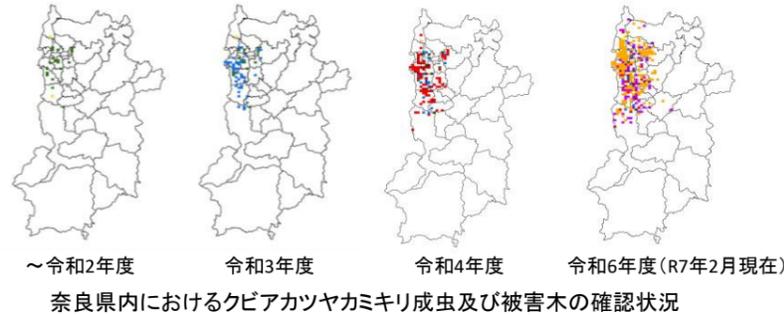
○ 令和5年4月1日 「定着済み特定外来生物」防除が都道府県の責務化

#### 1. クビアカツヤカミキリ

令和元年 奈良県内で初めてクビアカツヤカミキリを公式に確認

令和2年 生物多様性保全推進支援事業に採択頂き、早期防除計画を策定

令和3年～ 環境省補助事業に採択頂き、防除を実施中



#### 2. アルゼンチンアリ

令和3年～ 奈良県内で初めてアルゼンチンアリの生息を確認。分布モニタリングを開始。

令和5年 「特定外来生物防除等対策事業」により  
～6年 支援を受けてアルゼンチンアリ早期防除計画策定。



#### 3. アカミミガメ

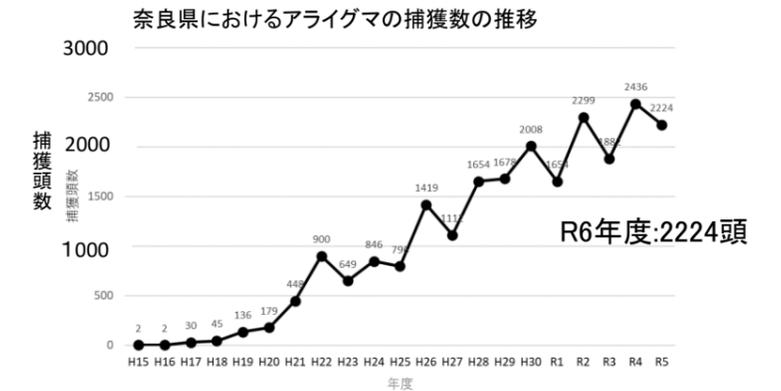
令和5年6月から外来生物法に基づき  
「条件付き特定外来生物」に指定。



#### 4. アライグマ・ヌートリア

平成21年 「奈良県アライグマ防除実施計画」を策定。  
市町村、県民と協力して防除を開始。

令和5年～ 「奈良県アライグマ・ヌートリア防除実施計画」を策定。  
アライグマと同じスキームでヌートリアも防除を開始、実施中。  
(県民が捕獲、市町村が運搬と死体処理、県が安楽殺)



### 国にお願いすること

#### 「定着済み特定外来生物」防除への支援について

- (1) 特定外来生物は年間を通じた防除が必要となるが、「特定外来生物防除等対策事業」の交付手続きが複雑なうえ、交付決定も遅く、対応が難しい現状である。  
そのため、**4月1日から防除事業を行える事業設計**としていただくとともに、防除を行う全ての自治体に**満額の予算配分**をお願いしたい。
- (2) アカミミガメなどの「**条件付き特定外来生物**」について、県民に安楽殺処分を求めることは実際には困難。また、一般廃棄物処理施設を持たない都道府県が単独の安楽殺処分施設を整備・維持することは非現実的である。  
そのため、**国による持ち込み処分が可能な施設の指定・整備**をお願いしたい。
- (3) 現状160種以上の「**特定外来生物**」のうち、**約半数の定着済み生物**について**防除責務が都道府県**に課せられており、すでに網羅的な対処は不可能な状況である。  
そのため、特定外来生物の指定手続きの中に、**都道府県の意見を聞く制度**を設けていただきたい。

【県担当部局】 環境森林部 景観・自然環境課

# 奈良県要望

## 特定外来生物防除等対策事業について

### 奈良県における取組等

- バラ科樹木（サクラ・ウメ・モモ等）を食害・枯死させる特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害を令和元年に初確認。
- 以降、被害は奈良盆地全域、吉野郡へも拡大。令和7年8月現在28市町村（全39市町村）で被害を確認。
- 多くの市町村が防除に着手。令和7年度は14市町村が特定外来生物防除等対策事業に応募したものの、内示率が10～30%の市町村が多く、広域連携防除を試みるも、十分な防除を実施できない状況。



吉野山



郡山城跡



行政担当者ミーティング

専門家からの防除技術の習得や広域連携を目的に自治体職員向けミーティングを開催。令和7年度は自治体職員延べ146名が参加。

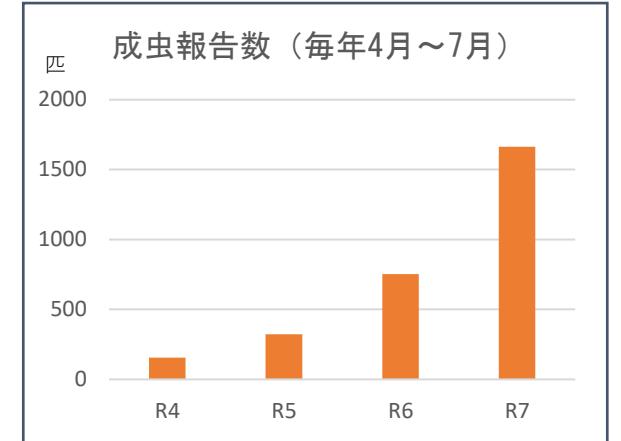
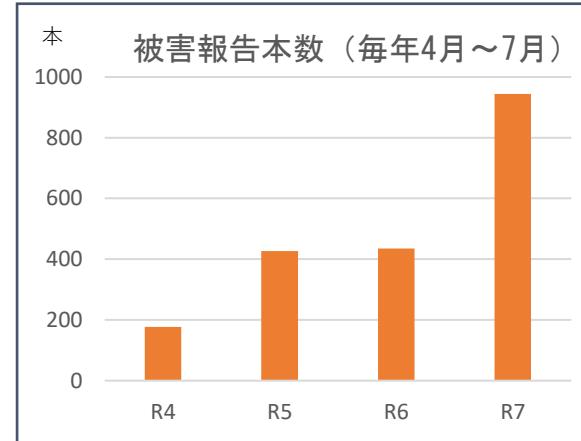
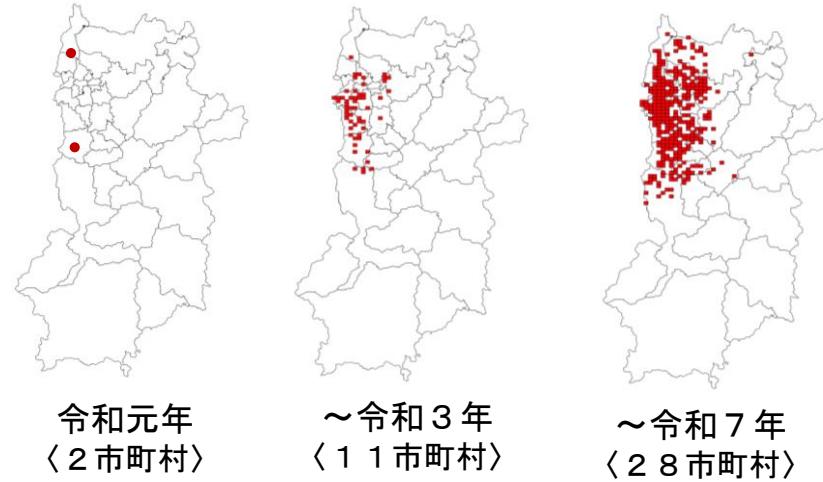


サクラ見守り隊ボランティア講習会

県民防除ボランティアである「サクラ見守り隊」約200名が県内各地で成虫駆除や被害確認に活躍。

### 県へ報告のあった被害

#### クビアカツヤカミキリ被害の広がり



(※報告のあった数であり、実数は更に多いと推定)

令和7年度 多数のクビアカツヤカミキリの成虫飛散を確認

令和8年度以降 被害区域の拡大、被害量の増加する懸念

今後更に「特定外来生物防除等対策事業」への取組が急務

### 国にお願いすること

急激に被害が拡大している特定外来生物クビアカツヤカミキリについて、地方自治体が防除を実施するための**十分な財源を確保**していただくとともに、**抜本的な防除対策に向けた研究等知見**を恵与いただきたい。